

[様式 9 - 1]

## 福祉サービス等第三者評価結果

## 総合評価

受診施設名	亀岡あゆみ保育園	施設種別	保育所 (旧体系： )
評価機関名	(社) 京都ボランティア協会		

平成 20 年 2 月 29 日

総 評	<p>亀岡市東部の静かな住宅街にあり、地域住民との関係も、適切な対応により、改善されている。地域への子育て支援事業は市民にも認識されており、社会貢献ができています。</p> <p>園長はじめ職員がさまざまな年代で構成されており、子育て経験者も多いことから、子どもたちは元気に、ゆったりと過ごしている。</p> <p>長い歴史のうえにたって、時代に応じた活動をしてきており、地域からの信頼が厚く、優れた保育園である。</p>
特に良かった点(※)	<p>四半世紀以前に同志社英学校を設立した新島襄の精神をもとに社会福祉法人倣襄会を設立し、「智・徳・体の三位一体教育」を実践するべく開設した保育園であり、園長の優れた理念により運営されており、若い保母への教育も行き届いている。</p> <p>園内のすべての職員は、すべての子どもたちの名前と顔、保護者の顔をしっかりと把握し、担任でなくともきちんに対応できるようにしており、保護者の安心と信頼につながっている。上記の2点により、子どもたちは元気で明るく、子どもらしく、園生活を楽しんでいる。</p> <p>優れた職員を雇用するとともに、保育経験者を優先して雇用しており、チームとしての業務がうまく運営されている。研修は積極的に行われており、報告書の提出と点検もなされている。一人ひとりの職員の努力目標が設定され、点検もなされている。</p> <p>福祉活動を通じて地域社会に貢献することを掲げており、相談受付、講演会、未入園児への園庭開放等の子育て支援事業を行ったり、子育て情報を地域に提供するなど、事業所の機能を地域社会に還元している。</p> <p>業務マニュアルの策定、利用者情報の職員間での共有、年度目標の設定とその振り返り等が適切になされている。</p> <p>サービスの開始にあたってはわかりやすい説明書『入園のしおり』があり、見学や体験入園にも応じている。</p>
特に改善が望まれる点(※)	<p>地域ニーズの把握に基づいた年度ごとの事業計画を策定し、その計画にしたがって職員が一体となって取り組むとともに、保護者や地域にも理解と協力を求めることが望まれる。</p> <p>管理者はリーダーシップを発揮しているが、運営課題や保育目標の検討には非常勤職員もふくめて職員全体の会議でおこなうことが求められる。</p> <p>保護者との個別面接はおこなわれているが、クラス保護者会の開催などにより、保護者同士の交流をはかり、園の運営にまで関わる積極的な姿勢をもつ保護者が増えればと思われる。</p> <p>常勤職員のみならず非常勤職員も含めた園内研修、外部研修の受講が期待される。</p> <p>保護者からの情報のみならず専門的な立場からアセスメントをおこない、園児一人ひとりの目標と計画を策定し、個人記録にはその計画に沿って記録し、毎月のモニタリングをおこなうことが期待される。</p>

※それぞれ内容を3点程度に絞って掲載しています。評価項目毎のコメントは「評価結果対比シート」の「自由記述欄」に記載しています。

# 京都府福祉サービス等第三者評価事業

[様式9-2]

---

## 【共通評価基準】

# 評価結果対比シート

---

受診施設名	社会福祉法人倣裏会 亀岡あゆみ保育園
施設種別	保育園
評価機関名	社団法人京都ボランティア協会
訪問調査日	平成19年11月29日

## I 福祉サービスの基本方針と組織

評価分類	評価項目	評価細目	評価結果	
			自己評価	第三者評価
I-1 理念・基本方針	I-1-(1) 理念、基本方針が確立されている。	① 理念が明文化されている。	A	A
		② 理念に基づく基本方針が明文化されている。	A	A
	I-1-(2) 理念、基本方針が周知されている。	① 理念や基本方針が職員に周知されている。	A	A
		② 理念や基本方針が利用者等に周知されている。	A	A
I-2 計画の策定	I-2-(1) 中・長期的なビジョンと計画が明確にされている。	① 中・長期計画が策定されている。	非該当	
		② 中・長期計画を踏まえた事業計画が策定されている。	A	C
	I-2-(2) 計画が適切に策定されている。	① 計画の策定が組織的に行われている。	A	B
		② 計画が職員や利用者等に周知されている。	A	B
I-3 管理者の責任とリーダーシップ	I-3-(1) 管理者の責任が明確にされている。	① 管理者自らの役割と責任を職員に対して表明している。	A	A
		② 遵守すべき法令等を正しく理解するための取り組みを行っている。	A	B
	I-3-(2) 管理者のリーダーシップが発揮されている。	① 質の向上に意欲を持ちその取り組みに指導力を発揮している。	A	B
		② 経営や業務の効率化と改善に向けた取り組みに指導力を発揮している。	A	B

## 【自由記述欄】

社会福祉法人倣裏会としては法人開設以来の理念「私たちは福祉活動を通じて地域社会に貢献します」、経営の方針「経営基盤の強化を図りつつ、福祉サービスの質の向上、並びに事業運営の透明性を確保しよう」が定められ、職員の行動原則が3点掲げられており、パンフレットに明記されている。あゆみ保育園としては保育目標を「明るい子」「思いやりのある子」「がんばる子」の3点を掲げ、入園のしおりに明記するとともに、園の玄関に掲げている。職員はこの理念にしたがって毎日の業務をおこなっている。利用者はこうした理念を選択の指針としており、利用開始後も保護者会等で理念の啓発は行われている。地域には事業所開設時に説明会がおこなわれており、パンフレットは市役所、市民病院、福祉事務所等に配布されている。

職務分掌規程が策定されており、園長、園長代理等が責任を全うしている。管理者(園長)としては「人を育てる」「良い職場にする」「大きくする」の3点を掲げ、年2回の法人全体会議では話をし、職員には常に「一流の社会人たれ」「一流の保育者たれ」と言っている。こうした園のあり方に対して利用者からの信頼が厚い。一人ひとりの職員の目標は4月に設定され、10月に検討するなど、適切に行われている。それを結集し、職員総体として園全体の目標に関する評価を組織的におこなうことが求められる。

年度ごとの計画は年2回の全体会議で検討されているが、数値目標はなく、非常勤職員や保護者への周知徹底による協働作業はおこなわれていない。地域ニーズを把握し、園の事業計画を数値目標を含めて年度ごとに立てること、その際には非常勤職員も加わった検討会議が開催されるとともに、計画の達成状況に関しても全職員による検討が望まれる。年度事業計画は利用者である保護者にも周知徹底することによって、課題の達成をはかることが期待される。

## II 組織の運営管理

評価分類	評価項目	評価細目	評価結果	
			自己評価	第三者評価
II-1 経営状況の把握	II-1-(1) 経営環境の変化等に適切に対応している。	① 事業経営をとりまく環境が的確に把握されている。	A	B
		② 経営状況を分析して改善すべき課題を発見する取り組みを行っている。	非該当	
		③ 外部監査が実施されている。	非該当	
II-2 人材の確保・養成	II-2-(1) 人事管理の体制が整備されている。	① 必要な人材に関する具体的なプランが確立している。	A	B
		② 人事考課が客観的な基準に基づいて行われている。	A	C
	II-2-(2) 職員の就業状況に配慮がなされている。	① 職員の就業状況や意向を把握し必要があれば改善する仕組みが構築されている。	A	A
		② 福利厚生事業に積極的に取り組んでいる。	A	A
	II-2-(3) 職員の質の向上に向けた体制が確立されている。	① 職員の教育・研修に関する基本姿勢が明示されている。	A	B
		② 個別の職員に対して組織としての教育・研修計画が策定され計画に基づいて具体的な取り組みが行われている。	A	B
		③ 定期的に個別の教育・研修計画の評価・見直しを行っている。	A	A
	II-2-(4) 実習生の受け入れが適切に行われている。	① 実習生の受け入れに対する基本的な姿勢を明確にし体制を整備している。	A	A
		② 実習生の育成について積極的な取り組みを行っている。	A	A
	II-3 安全管理	II-3-(1) 利用者の安全を確保するための取り組みが行われている。	① 緊急時(事故、感染症の発生時など)の対応など利用者の安全確保のための体制が整備されている。	A
② 利用者の安全確保のためにリスクを把握し対策を実行している。			A	B
II-4 地域との交流と連携	II-4-(1) 地域との関係が適切に確保されている。	① 利用者と地域とのかかわりを大切にしている。	A	B
		② 事業所が有する機能を地域に還元している。	A	A
		③ ボランティア受け入れに対する基本姿勢を明確にし体制を確立している。	A	A
	II-4-(2) 関係機関との連携が確保されている。	① 必要な社会資源を明確にしている。	A	B
		② 関係機関等との連携が適切に行われている。	A	B
	II-4-(3) 地域の福祉向上のための取り組みを行っている。	① 地域の福祉ニーズを把握している。	A	A
		② 地域の福祉ニーズに基づく事業・活動が行われている。	A	A

## 【自由記述欄】

管理者には職員が働きやすい職場にしたいという思いがあり、有給休暇の消化率は良く、希望休にも応じている。専門のスーパーバイザーは導入していないものの、職場内で話しやすい状況をつくることに専念している。一人ひとりの職員は毎年度初めに「努力目標」を管理者とともに話し合い、半年後にはその振り返りを行っている。組織としての研修は研修専門機関の「新人研修」「新人確認研修」「若手中堅職員セミナー」「主任研修」等を受講させており、受講した職員はレポートを提出し、会議での報告もおこなっている。管理者はそういった研修成果について評価をおこなっている。組織が職員にたいして求める基本的姿勢や意識といった職員像は明確でなく、また一人ひとりの職員の到達点を踏まえた課題の設定に関しても文書化されていない。かつて職員であったが出産・育児のため退職した後、再び復帰して働く人を率先して雇用しており、保育経験の少ない若い新卒職員とペアとなり、大きな効果を発揮している。しかし、正規職員ではないということで、会議の参加はなく、研修の受講もないことは改善が求められる。実習生の受け入れはマニュアルが作成され、積極的にこなされており、実習報告書が残されており、保育人材の育成に力を注いでいることが明白である。

利用者の安全管理には力を注いでおり、門扉に向けて監視カメラを設定し、スタッフ室で管理している。緊急通報システムやカラーボールの常備をしている。火災に関しては消防署との連携のもと、毎月の避難訓練をおこなっている。園内の自主点検は年3回おこなっている。安全管理マニュアル、緊急時の園内支援体制マニュアルが策定されている。利用者数の拡大に伴って園が拡張されてきた経緯があり、階段や坂など安全性が危惧される点もふくめて、子どもの事故事例の収集と要因分析を的確におこなうことが求められる。

子育て支援事業に力を入れており、相談受付、地域住民への講演会、地域の未入園児への園庭開放等をおこなっている。子育て情報を地域に提供するとともに、園の情報を地域に積極的に公開し、運営の透明性を図っている。保育園の地域のニーズを数値として把握し、今後の経営方針を策定すること、事業計画を数値目標を伴って立てること、必要な人材について計画を立てること、立てられた計画を職員のみならず利用者にも周知し、共に運営への協力体制をつくっていくことが望まれる。また地域の社会資源を把握し、関係機関との連携をとるとともに、定期的な連絡会をもつことが望まれる。

## Ⅲ 適切な福祉サービスの実施

評価分類	評価項目	評価細目	評価結果		
			自己評価	第三者評価	
Ⅲ-1 利用者本位の福祉サービス	Ⅲ-1-1 利用者を尊重する姿勢が明示されている。	① 利用者を尊重したサービス提供について共通の理解をもつための取り組みを行っている。	A	A	
		② 利用者のプライバシー保護に関する規程・マニュアル等を整備している。	A	A	
	Ⅲ-1-2 利用者の満足度の向上に努めている。	① 利用者満足の向上に意図した仕組みを整備している。	A	A	
		② 利用者満足の向上に向けた取り組みを行っている。	A	A	
	Ⅲ-1-3 利用者が意見等を述べやすい体制が確保されている。	① 利用者が相談や意見を述べやすい環境を整備している。	A	A	
		② 苦情解決の仕組みが確立され十分に周知・機能している。	A	A	
		③ 利用者からの意見等に対して迅速に対応している。	A	A	
	Ⅲ-2 サービスの質の確保	Ⅲ-2-1 質の向上に向けた取り組みが組織的に行われている。	① サービス内容について定期的に評価を行う体制を整備している。	A	A
			② 評価の結果に基づき組織として取り組むべき課題を明確にしている。	A	B
③ 課題に対する改善策・改善計画を立て実施している。			A	B	
Ⅲ-2-2 個々のサービスの標準的な実施方法が確立している。		① 個々のサービスについて標準的な実施方法が文書化されサービスが提供されている。	A	A	
		② 標準的な実施方法について見直しをする仕組みが確立している。	A	A	
Ⅲ-2-3 サービス実施の記録が適切に行われている。		① 利用者に関するサービス実施状況の記録が適切に行われている。	A	A	
		② 利用者に関する記録の管理体制が確立している。	A	A	
		③ 利用者の状況等に関する情報を職員間で共有化している。	A	A	
Ⅲ-3 サービスの開始・継続		Ⅲ-3-1 サービス提供の開始が適切に行われている。	① 利用希望者に対してサービス選択に必要な情報を提供している。	A	A
	② サービスの開始にあたり利用者等に説明し同意を得ている。		A	A	
	Ⅲ-3-2 サービスの継続性に配慮した対応が行われている。	① 事業所の変更や家庭への移行などにあたりサービスの継続性に配慮した対応を行っている。	A	A	
Ⅲ-4 サービス実施計画の策定	Ⅲ-4-1 利用者のアセスメントが行われている。	① 定められた手順に従ってアセスメントを行っている。	A	B	
		② 利用者の課題を個別のサービス場面ごとに明示している。	A	C	
	Ⅲ-4-2 利用者に対するサービス実施計画が策定されている。	① サービス実施計画を適切に策定している。	A	B	
		② 定期的にサービス実施計画の評価・見直しを行っている。	A	A	

## 【自由記述欄】

利用者を尊重することは法人理念、園の理念に明記されており、管理者をはじめ職員は遵守している。相談窓口の設定、第三者委員の設定もおこなわれ、相談室にも配慮している。2年に1回、保護者にアンケートをとっており、その集計結果により、改善が行われている。保護者は同じクラスの保護者同士の交流を求めており、その設定が望まれる。プライバシーポリシーは策定されており、職員の守秘義務も守られている。ただ、トイレが男女共用であり、個々の困いがなく、園児が立って中をのぞける状態になっていることに関して、子どもとはいえ一層の配慮が望まれる。

業務マニュアルの策定はおこなわれており、マニュアルに添って業務が実施されている。マニュアルに子どもの個性尊重の内容を盛り込むことが望まれる。

年度ごとに「保育計画」が策定され、「保育目標」と「教育の目標」が詳細に立てられている。さらに「年齢別保育のねらい」が策定されている。実施についての検討は乳児会議と幼児会議→チーフ会議→職員会議という段階で検討されている。困難事例のケースについては担当が情報収集し、主任、園長代理等が話し合い、職員会議で検討している。

新規申込に対しては保護者面接をおこない、『入園のしおり』により、ていねいに説明している。

利用申込に対して、「家庭状況報告」「発育の記録」「おこしやすい症状」等々により、情報を収集している。子どもの情報に関しては主に母に記入を求めており、家族関係や既往症、生活状況、性格、母として「良いと思うところ」、「直したいところ」、「どんな子どもに育ってほしいか」等を聞いている。こういった情報は保護者が書かない場合は非常に少なく、面接した記録も不十分である。さらにアセスメントを踏まえてニーズや課題に基づいて、子ども一人ひとりの個別の保育計画は立てられておらず、保育計画にそった記録がない。年齢ごとに目標はあるので、そのなかに個別のニーズをよりこみ、四半期ごとの評価にもその記載が求められる。